院内マスク「個人の判断」富山県立中央、砺波総合見直し　富山市民、厚生連高岡は維持

８／２１　北国新聞

マスク着用を「個人の判断」と周知する貼り紙＝富山県立中央病院（北國新聞）

富山県内の病院で、新型コロナウイルス感染拡大以降に必須となっていた患者や来院者、職員のマスク着用を「個人の判断」に委ねる動きが出てきた。県立中央病院と砺波総合病院が今夏からルールを見直した。暑い日が続く中、マスクをしなくてもよくなり歓迎する声が聞かれる一方で、慎重姿勢の病院もある。県立中央病院ではコロナ禍以降、医師や職員、患者ら院内の全員が症状の有無にかかわらずマスクを着用してきたが、7 月 14 日に変更した。院内の貼り紙で、熱やせき、鼻水などの症状がある場合は着用を呼び掛けている。

●「暑さ」きっかけに

県立中央病院感染対策室の彼谷裕康室長は「症状のある人がマスクをすれば感染対策はできる」と指摘する。全国的にマスク着用を求めない病院が増えており、今夏の暑さもきっかけにコロナ前の状態に戻したという。砺波総合病院も 8 月 4 日から着用を個人の判断とした。瀬尾浩昭総務課長は「コロナ前の環境に近づくことで、病院に来やすくなればいい」と期待する。ただ両病院によると、変更後もマスクをつけている患者が多い。20 日に母親の付き添いで県立中央病院を訪れた 40 代男性は「回りの人を不安がらせたくないので病院に来るときは必ずマスクをする」と話した。

富山市民病院は院内では基本的に全員マスク着用のルールを維持。今年度に入り、職員が事務室内や内部の会議でマスクを外してもよいこととした。厚生連高岡病院も患者がいる場所では職員は必ずマスクをし、面会や付き添いを含め着用をお願いしている。担当者は感染すれば命に関わる恐れもあり、患者を守るための対策は引き続き必要だと話した。